



# リュウキュウ藍を 育てて染める

5月分

---

## はじめに

---

5月の風が緑を鮮やかに染めてさわやかな時節を過ごしています。庭に干した染め布がはたはたと喜びの舞を舞っているようです。災害に負けず、人も草もはばたけることを祈ります。

いかがでしょうか。地方によって苗の大きさもずいぶん違うと思いますが、うまく定植できましたか。藍は暖かいところに育つ草なので、南国だと大分大きく育てているかもしれません。寒い地方では、まだ定植が出来ない方もあるかもしれません。藍は成長が早いので、暖かい地方では3回収穫が出来ます。約1月で刈り取りますから7、8、9月と刈ることが出来ます。寒い地方では、1回しか刈れませんが、暖かくなってから種まきをして8月に取れるような考え方をすると、今から種を蒔いても収穫できるわけです。しかし、芽が出なかったり、大きくならないなどの問題がありましたら申し出てください。送料着払いで苗をお送りすることもできます。

今回お送りしたリュウキュウ藍も、植えかえると大きく育ちます。ただし、日照りの強い畑に植えると葉がちぢれてきます。梅雨が明けたら寒冷紗等で日陰を作ってください。育ったら大きな葉からちぎって使います。草丈が大きくなれば、茎を切ってさし木をし、たくさん葉を殖やしてください。

この藍は、ジュースにするとタデ藍より緑がかった色になります。水に2、3日浸けてそのまま染めたり、沈殿藍を作ったり、また後で紹介します紫の染めに使うのに適しています。

---

## リュウキュウ藍

---

今回はリュウキュウ藍について取り上げます。

20年も前になるでしょうか。徳島のデパートの一角で、沖縄の染め作家による藍染めの展示会があり見に行きました。そのころ草木染めに取り組んでいたので興味があったからです。何十点か並べられた藍色の染め物の中に紫がかかった色を見つけ、「これは藍で染めたのですか？」と尋ねました。展示場の一角に鉢植えがあり、何本かの草が植えられており、「このリュウキュウ藍を煮て染めたのです」との説明がありました。その草を分けていただきたいとの私の願いを聞き入れてくださり、展示会の最終日に1本いただいたのが私とリュウキュウ藍の出会い、ひいてはタデ藍による七色染めの始まりでした。

その後、この草は冬になる毎に枯れかけ、春にまた新芽を出すと、数年かけまして私の庭の片隅で少しずつ殖えておりました。また、友人が沖縄から何本か持ち帰ってくれ、育て方や染め方を教わって来て、教えていただくことができました。そして、「日陰の湿気の多いところが育ちよい」と植えてくれたのが、数年来大きく根付くようになりました。

今回皆さんにお送りします苗も、それをさし木で殖やしたものです。昨年さし木したもので、大きくなっていますので一本送ります。すぐに大きめの鉢か土に植えかえてください。注意点に気をつけて育てていただくと、どんどん大きくなり、高さ50cmくらい、まわりも50～60cmくらいになりますから、広い場所が入用です。鉢植えの場合は、大きくて深めのものを用意するとよいでしょう。またリュウキュウ藍は強い日差しに弱いので、鉢を日陰に置いたり、土に植える場合は梅雨が明けたら寒冷沙等で日陰を作らねばなりません。

根に当たらないように野菜用の肥料を時々与えてください。タデ藍よりも虫に強いようです。葉の色が濃い緑色をしたものが良く、葉っぱがくるまるようになるのは日光が強過ぎる等の原因があることがわかりました。

葉がどんどん大きくなると上の方を刈り取るか、ハサミで切り、葉のみを使います。年3回くらい、葉を取り染めることができます。茎は染まりませんので、さし木に使います。

梅雨の頃に枝を切ってさし木をしてください（【さし木の仕方】参照）。上や横に出た枝を切ってさします。鉢植えや日陰の土に植えて、水をたっぷりやりながら根付くのを待ってください。

土は鹿沼や赤玉等が混ざったものが水はけが良いようです。特にさし木をする時は、鹿沼の細かいものが早く根付きます。こうして殖やして、たくさんの苗を取ることができましたので、数年前からこの講座のカリキュラムに加えています。

この草は、東南アジア、中国、沖縄等の暖かい地方に育つ植物ですので、日本では霜の降りる場所ではビニルハウスや家の中で育てる必要があります。でもタデ藍のように毎年種を蒔いて育てる一年草と違って、多年草ですからうまく育てれば冬も染めることができるわけです。本来この草は沈殿藍を作って泥藍にし、アルカリ剤を加えて藍分を溶け出させ、還元剤で藍建てをして染めるものです。十数年来この草の染めと取り組んでみましたところ、タデ藍に加えてもっと数多くの色を染め出すことが分かりました。

今回の講座では、その染め方も解説していきますので、まずはたくさん殖やしていただきたいのです。

さし木その他、取り木もできます。下の方の枝を土の中に埋めるようにまげて、その上に土をかけ、土を叩きつけて水をかけ、そこから根をおろさせる方法です。

このようにして、たくさんの葉を取っていただきたいと思います。

※公開はここまでです。